

16. カナダの現状（1982年5月報告）

— 二人のカナダ青年の場合 —

25才のエリク青年は、貧困族と呼ばれる新しいグループの一人、小さいな身成りをしており、自分の意見をはっきりと言える若者である。彼はトロントにある救世軍の伝道所で無料の食事をもらうため、他の貧困者、主に浮浪者らと共に長い列を作って待っている。

ここに来る多くの者は、薬物やアルコールの中毒者、社会から見放された浮浪者らで、一見すればすぐそれと分かるのだが、エリク青年はその点では珍しい存在である。グローブ・アンド・メール紙で失業特集を組むため、各施設回りをしていた記者がエリク青年に声をかけた。それに答えるエリク青年「将来仕事を見つけられるか、だって、とんでもない。ここ暫く色々と仕事を探し続けたがダメだった。やる丈やっこうなのだから、もう現実を受入れる以外にないと思う。だからこうして週に3回無料スープをもらうためここに来てるんだ…」。

彼は高校を一年目で中退して運送業の手伝いを2年間したが解雇された。その後オンタリオ州政府の印刷関係の仕事をしたが一年後に閉業で失職。それから職を転々としたが最後には、社会福祉手当金をもらう身にまで落ちてしまった。中流クラスの生活をしている彼の両親は、トロントに住んでいるが、彼は貧困者専用のアパートに一人で住んでいる。彼の父はある問屋で働いており、彼の言葉によると、父親は働くことが人生そのものと考えている固い人で、風来坊の息子と同じ屋根の下で暮らすことを嫌い、エリク青年は家を追出されたのである。

「福祉手当金丈では食事も満足に出来ない。だから自分にとっては救世軍の様な施設が食費を補充できる唯一の場所だ」という。救世軍の施設では、一週間に4晩、食堂を貧困者に公開し、一時間の宗教講話を聞かせた後無料の食事を提供している。スープとパンが主で、スープには野菜や大麦、大豆、きのこなどが入っている。

一日に只一度の食事をここで取る者が多く、その様な人達が、スープライン

に並び、パンを受取ってテーブルにつき食事をする光景を想像してほしい。食事を終えた人達は、出口の側に積んである近所のパン屋が寄付した古パンをわずかみにして持って帰ったり、その場でむさぼり食う者、又ゴミ捨て場にある豚の餌用の残飯まであさってゆく。

エリク青年も一連のパンを抱えており「ここでは、少し利口に振舞えば数日食いつなげるパンを手に入れることだって出来るのさ」という。彼は2週間毎に119ドルをトロント市から救済手当金として受けている。この中から65ドルはアパート代に回り、残りを衣・食費にあてている。お金が入った当初はパンやバターを買い、少しゼイタクしてビーナソバターを買い程度、お金がなくなると各施設を回り食いつなぐか、何も食べないことも多いという。こんな繰返して1ヶ月がすぎている。

「僕は、一日一日をやっと生きている、それも食事から食事への心配で終ってしまい、同世代の者の様に金曜や土曜の夜女の子とデートするなんて別世界のこと。週日も週末もちっとも変らぬ毎日で、カレンダーの必要もない…」と。その彼のささやかな楽しみは、タバコを吸うこと、しかもそれは吸差しの捨てられているタバコである。これらは、道路で拾ったり、レストランの灰皿から集めたり、時には知らない人に乞うて貰う。集めた吸いさしのタバコを一本にまとめて吸えたらどんなによいだろうナァーと思うがそれらを巻く紙を買えないのであきらめている。

「僕は18才から救済手当金の世話になっているが、仕事をしている時はもらわなかった。しかしずっと貧乏に徹した生活の連続である時どうしてもお金の必要に迫られ、トロントの中心街に立って金乞いをした事がある。朝の5時から午後2時迄立っていて28ドル集めた。しかし冬の特に寒い時には街頭に立つのがきびしいので、そういう時は無銭、従って食べずに過した。先日拾った新聞にある仕事口の広告が出ていた。人の話によるとその一つの職に約600人が応募したと聞いたが、僕もその仕事に一年前応募したが断られてしまった。これはいいナと思う様な仕事口の広告では、大抵それに必要な資格が求められ、僕の様には資格の何も持たぬ者が断られても当然かもしれない。それでも余り資格を要求されずに働ける部門が衣料会社や印刷業、卸問屋、工場、倉庫等にはあるはずなのにそれさへも今の自分には探すことが出来ない。マンパワーセ

ンターに何度も足を運んだが無駄骨に終わってしまった。生きてゆく限り最低の金や物は要し、それを持ってない時には、盗むということも出来ようが、僕はそこままだ落ちぶれた人間になっていない。教育が無いのは痛手だが、お金を得るためにはどんな事をしてでも働らく意志があるのにその機会がない現在、この壁をどう切抜けていったらいいのか、正直言って僕には分らないんだ…」。

エリク青年の様な若者が、ここ1~2年の間にカナダ各地で増えており救済施設のスープラインを更に長くしているという。

その他、幾つかの新らしい傾向が、社会福祉事業面に暗い影を添えている。

- 1年前迄まさか自分が落ぶれて社会の助けを求める立場になるなど夢にも考えていなかった人達、特に中流家庭の主婦らが子供のために施設の無料食事を利用し、浮浪者と共にスープラインに並ぶ様になった。
- 昨秋迄、緊急ホステルの宿泊日数は5日間が限度であり、浮浪者が主に利用していたのに最近、家があってもその支払いが出来ずに家を明け渡した者、室料の暴騰により、支払い可能な場所をみつけれずにいる者等が1ヶ月迄宿泊できる場所が変わってきた。
- 社会福祉手当金丈では生活出来ない人達が増えており、そのため救済施設で扱う衣・食料の需要がめっきり増えてきた。
- 従来の浮浪者・貧困者は殆んどが男性でしかも40~50代であったのに今は18~25才の若者が多くこの仲間に入ってきている。
- 女の浮浪者が増えてきた。
- 急増した失業者の多くは、比較的裕福な暮らしに慣れてきた人達なので、失業という初めての体験で生活を、家庭をどう切回してゆくべきか分からない人が多い。精神的な打撃もあり家庭崩壊を招く者が増え彼等がカウンセラーに相談する数が増えている。

エリク青年とは対照的なもう一人のカナダ青年を紹介しよう。

29才のブレンドは、オタワの大学で音楽を学び、修士号までとった。更にアメリカの大学で音楽博士号を得た作曲家である。長身、やせすぎ、物憂い影をもった表情の若者が、シャンデリアの輝くレストランでバックグラウンドミュージックにチェロをひいている。お客の誰も全く無関心。ブレンドは博士号を持ち乍ら希望の仕事がみつからずあるレストランで一時的に雇われてはチェ

口をひいて稼いでいる。定職のない彼は、独立することが出来ず、両親の住むオタワの自宅に同居している。出来ればどこかの大学で音楽の教職につきたいと履歴書を何十通も各地に送っているが一向に就職できない。求職運動で分かったことは、現在カナダの大学の音楽部門では、拡張の気配どころか経費削減、職員減少の傾向にあるということだった。

トロントにあるヨーク大学の音楽部で、ある辞職者の跡を埋める求人広告を出した所90人の応募者があり、その歌を見事射とめたのはブレンド青年ではなく、アメリカから移住してきた人だった。又ウオータールー市にある大学の音楽部で求人広告を出した所何人と120人の応募者が殺到し今回もブレンドは選ばれずカナダに住んで数年というアルゼンチンからの移住者がその職を得た。ブレンドが今していることは、バーで一夜チェロをひいたり、1ヶ月に一度レストランのバックミュージックにチェロをひく。又依頼されたらカクテルパーティーや結婚式へ出張して演奏する。年に6回オタワのシンフォニーオーケストラで演奏しているが、これ丈の契約では生活を維持することはむずかしく、独立をしてみるのはものすぐにオタワの両親の元に戻るといった工合である。ある日彼は、本屋やレコード店の事務系の仕事に応募したが断られてしまった。博士号をかくして応募した方がよかったのではと後で気がついたがすでに遅かった。失業保険を得ようと申し込んだら最少前職就労期間の8週間にみたく断られ、救済手当金の申し込みでは、両親と住んでいることで失格した。「僕は2、3のレストランにゆきバスボーイ(料理運びや皿洗い)の仕事でもないかと聞いてみたが、どこでも今は人手が要らないと断られてしまった」と絶望しきっている。ところがある日カナダ市民の納税期締切りも近い頃、国税局で一時労働者を求めているので応募したら幸運にも採用された。朝の7時半から午後3時半まで全国から集まった納税明細書類の整理をする。パートタイマーの殆んどは女性で30余名中彼が唯一人の男性である。彼の名前が女性名に近かったので採用者側で間違えて彼を採用したのでは…と内心思っており、つまらない仕事だが収入のあることでがまんをしている。パートタイマーの仕事は、時がくればすぐ終りとなるので次の仕事を考えなければいけない。今彼はタクシードライバーをしようかと考えている。といっても自分の車を持たず、決して本物のドライバーと言える程運転も上手でないので早急に運転を習わなければ

ばいけないと思っている。

もう一つ考えていることは、カナダ防衛隊の中に音楽隊がありそのグループの増員を噂で聞いたので、ここに入隊したら或いは彼の習得した音楽に関する知識や技術を生かせるのではないかと期待している。

何れにせよ本業の作曲は、当分忘れた方がよいと悲しい決断を下している。誰でも頼まれたらどんなに当人の生活が不安定であっても、又精神的ストレスに悩んでいてもチェロをひくことは出来るものだ。しかしこんなみじめなムードの時に作った曲を誰が喜んで聞いてくれるだろうか？ ブレンド青年は物憂げなまなざしで話をやめた。

以上2人の青年の話は何れも同じカナダの不況が生んだかくれた若者の像である。

カナダに長年住み、同じ職場で長いこと真面目に働いている技術移民の代表とも言えるある日系移住者が「最近会社に入ってくる仕事が少なくなり、いつかクビになるのではと心配になってきた」といっていた。又クビにならないまでも「一時無給休暇」と称して収入の途絶えたある移住者の主婦は、小さな子供を抱えており働いた経験はないのだが、家にいる様になった主人に子供を預け早速レストランで働き出した。1, 2年前には聞いたことのない現象がここ日系移住者間でもチラホラ目立つ此の頃である。

読者の中で、それでも移住を真剣に考えている人がいたら、そして移住の機会を得た人は是非移住してほしい。

すべてが順調にゆく人生位退屈なものはない。逆境でこそ貴方の実力を試すことが出来るし、考え方によっては今こそ移住の苦しみ喜びを真に体験できる所がカナダであるという気がするがどうであろうか？

「意志ある所道はあり」これは誰かが言っていたことわざをそのまま借りて書いているのではない。筆者の苦い体験を通して信じている言葉であり、これはどんなに現実が厳しくとも真実と思う。

17. 高度技術系職種の開発

(1982年6月報告)

去る6月3日、グローブ・アンド・メール紙の経済欄に次の様な記事があった。

カナダ高度技術協会(Canadian Advanced Technology Association)の会長ハチソン氏によると、次の10年間に、高度技術系の会社では50万職を創設したい。カナダ高度技術協会に加入している各会社では、既に2万職をオープンしており、又間接的には10万余の職がオープンしている。これは年間20%の割合で進展していることになる。

ハチソン会長によれば、現在のカナダの経済停滞を救う第一の方法は、職の創設である。そのためには高度技術部門における研究開発のGNPを3%目標にもってゆくよう国政府に働きかけることだ。

10年前カナダは研究開発のGNPを15%目標に進めて既に達したのに、現在も尚そのままというのは余りに低すぎる。日本やアメリカ、又はフランスでは10年前すでにGNP2%を越えているので、これらの国と競争をするならカナダも三国と同様の進歩かなければいけない。

協会がしなければならぬ第二の仕事は、国政府に対して高度技術系における研究開発への投資の重要性を認識してもらい様働きかけることだ。残念乍ら政府は、資源部門には力を入れているが、高度技術系の仕事の増設が国にとって、特に現在の経済力挽回に寄与するためいかに重要な因子か、その認識に欠けている。

従って高度技術協会の各委員会が、政府が現在やっているプログラムに対して強く再考を促し、国全体としての計画として高度技術の推進を行う旨の勧告政策案を打出し提出することが協会の当面の仕事である。

以上が新聞記事の要訳である。日本の経済的、科学的進展は著しい。これに反しカナダのそれはまことに遅々としている。しかし各業界、各専門分野の人達は、世界におけるカナダの位置を十分に承知しており、夫々の立場で各国と競争をする強い意を持っていて、その人達と共に働く為にも先進国日本からの高度技術系移住者の果す役割は大きい。

18 カナダの寒い夏 ーその1ー

(1982年7月報告)

レストラン業は、時の景気に余り左右されないとされているが、経営不振で閉店する所があると、それに乗ずる様に開店する所もある。

トロント市のベッド・タウンとよばれるオークビルの話だが、最近幾つかのレストランが開業することになり、ウェイター、バーテンダー、キッチン・ヘルパーそしてバスボーイ(料理運びや皿洗いをする人)等合わせて60名程の人手が必要となったので、職業安定所が広告を出した。これに対し応募者800名以上が殺到し、一人僅か10分程の面接の為に4時間以上も待ったという。応募者の多くは、学業半ばの大学生や高校生等、オークビル周辺の人とは勿論、西はバンクーバーから、東はノバスコシア州からも押し寄せ、又これら応募者の中にはレストランの経営管理、4年の経験を持つ元マネージャーまでいた。元マネージャー氏は、前職のレストランが閉店したため失業し、同職種を探すことが難しいと分り、バスボーイの仕事にでもついたらまだましな方だ、と言い乍ら面接を待っていた。カナダの学生は、夏休み中に学費を稼ぐ者が多いが、限られた時期に、限られた職種で目標額を得るのが最近非常に厳しくなり、学費の工面がつかなければ、学業を一時すてて働き続ける者が増えてきた。

最近開店したレストランの経営主は言う「どこから当レストランの開店の噂を知ったのか。開店6週間前から、面接はいつなのか?と電話の問い合わせが多くあり、実はとても驚いた。以前は、レストランで働らくと言えば、大抵は一時的なパートの仕事であったし、使われる側から労働条件、つまり週に何日と何日に、何時から何時まで働ける、と言ったものだが、今は、雇主が望むならいつでも、何時間でも働らくと言う人が増えてきたのが新しい傾向だ。曾ってではカナダ人が見向きもしなかった仕事を、移住者に当てていたのに今はそれらの仕事を、カナダ人が執拗に求める様になった」。

19. カナダの寒い夏 ーその2ー

(1982年8月報告)

トロント周辺には、オンタリオ州の商工業を支える幾つかの町が近接しているが、特にトロント西部、ハミルトンにかけての地域では、異常にさえ思われる程多くの解雇者が出た。その為、失業手当の受領者も、当地域では記録的な数を示し、オンタリオ湖に浮かぶ白帆の光景は、例年と変わらないのに何故か寒々とした夏の印象が強かった。

トロントの西部地域には、自動車、機械工場、鉄工関係の工場が多く、又建設関係の工場や会社が集中している。これらの分野では、カナダの経済停滞の影響を直接受け、大量解雇や工場閉鎖など続出した。昨年の夏、同地区での求職者数は約6,400人、今夏は11,900人と約2倍に増加したことが、同地区の雇用センターの調べで分った。又同地区での失業手当受領者は、昨年夏の5,500人から、今夏10,900人へと急上昇、まさに記録的な数である。多くの会社は、一時解雇と称して人件費を削減するが、一時解雇とは、文字通り一時的に解雇するものであり、景気の回復次第呼び戻すことを条件としているが、実はこれは言葉の上丈であり、永久解雇と解した方がよい様だ。実際に復職するのは、非常に稀だからである。

会社や工場が経営不振となると、人員削減の対象とするのは、最新入社員から、しかも生産部門に属する所謂ブルーカラー族から、というのが常識だったが、今はホワイト・カラー族にまで飛火しており、長年勤務した管理職や専門技術職にいる者でも、会社の生存の為に、血も涙もなく解雇する例が多くなってきた。この様な現象は、25年前には見られなかったことだ、とあるマネジメント・コンサルタントの人が言った。長年会社の為に貢献したのだから、自分丈は会社の温情主義にすがれるだろう…など考えてはいけないという。会社の生死の為に雇用者のこと等考えられなくなってきた会社、そして雇用者も自分丈の利害損得しか考えなくなれば、労使関係はどうなるのだろうか？こんな状態でカナダの経済の健全な成長を期待することが出来るのだろうか？寒いカナダの夏のお話などと言ってはられない気がする。

カナダ全域に支所をもつ専門職幹旋業団体の TECHNICAL SERVICE

COUNCIL の調査統計によると、今夏程、専門職種の空席が少ない。つまり需要が極端に減少した時は、過去13年間初めてだと言う。過去3ヶ月間に減少した求人職種は、ACCOUNTANTS, EXECUTIVES, ENGINEERS, SCIENTISTS そして他の専門職種で、これらは昨年夏71%の需要があったのに、今夏は44%に低下した。とにかく多くの会社が一時解雇をしたり、求人減少を行なっている現状である。

急激に削減された求人職種を更に詳細に述べると、

STRUCTURAL DRAFTMENとDESIGNERS, CHEMICAL PROCESS ENGINEERS, MECHANICAL DRAFTMEN, ACCOUNTANTS, PLANT ENGINEERS, INSTRUMENTATION ENGINEERS, COMPUTER PROGRAMMERSとSYSTEMS ANALYSTS, PETROLEUM ENGINEERSそしてMECHANICAL SALES ENGINEERSである。(JULY17, 1982 THE GLOBE & MAILより)

統計カナダの最新情報によると、現在カナダで失業している者は、約140万人と推定されているが、実数は、多分この倍位ではないかと言われる。世界各国の失業率が話題になる此の頃だ。去る8月10日の当地の新聞の見出しに、「日本やヨーロッパでも失業率上昇!」というのがあった。今カナダやアメリカでは、世界第二次大戦以後最高の失業者を数えているが、伝統的に失業者の少ない日本やヨーロッパでも失業率が上り、日本では昨年の夏の2.2%から今夏2.4%と0.2%上昇、2ヶタのカナダの失業率11.8%に比べると雲泥の差だが、世界各国で失業者が増えているのは事実だ。

カナダの経済回復の見通しは、まだ混沌としているが最低にまで落ちたカナダドルが少しづつアメリカドルに近ずきあるのは、明るい兆しと見たい。

景気回復に暫く時間はかかっても、いつ迄もドン底にさまようことをよしとするカナダ人ではないはずだ。

一日も早く日本の移住者が、我々の仲間に入ってくることを望んでいる。

20. 移民政策の過去と現在（1982年9月報告）

— ホーキンス女史の見方 —

1947年時の首相キング氏は、人種差別的移民政策をかなりオープンに説いたことで有名である。彼は当時、現在カナダ国を構成している人口図は、英仏系の白人種がその基盤にあり、カナダ国民はこの人口基盤を変えようとは望んではない……。しかし東洋からの大量移民によって将来カナダの人口構成は変わるかも知れない…と心配していた。それから35年経った今、キング首相の予想が見事当たったことで、彼の鋭い推察力を称える者が多い此の頃だ。現在カナダへの年間入国移住者の半数以上は、アジア系により占められている。

1962年、自由党のピアソン政府が新しい移民政策を実施して以来、かつての移民層が逆転したのである。つまり1960年代半ば迄は、アジア系移住者の数は、カナダ全人口の7%弱だったのに、1980年には50%台に増加、1981年のベトナム難民の移住が減少したことでその比率が40%台に下ったとは言え、60年代の1ケタに比べ大きな変化を示している。

1976年から'80年の5年間の統計をみると、アジア、アフリカ、中東アジア、ラテンアメリカ等からの移民が、全移住者の59%を占めており、これは約36万人に当る。これに比べヨーロッパ系やアメリカからの移民は、かつてカナダ全人口の85%を占めていたのに、現在は半分以下の41%となっている。

キング政府と当時の人達がおそれていた非白人種によるカナダへの大量移民現象は、カナダ社会にその人口構成図において変化を与えたものの、それ以上に脅威を受けたのは、移民等が後にした各祖国だったのである。カナダにくる各国の移住者は、教育水準が高く、しかも高度技術を持った者であり、最近召集された国際連合会議では、第三国の頭脳流出が議題にあがったことでも、移住者を送った各国の問題がうかがわれる。

この様に第三国からの集団移住が世界的に話題となっている折、カナダ国民は、大量移住者の流入により社会組織がおびやかされ、カナダ本来の政治にまで移民が影響を及ぼすのでは…と懸念を抱きはじめた。しかし実際には各国が

らの移住者がカナダの政治にまで関与し変化を与える程には数字的にまだ熟していない…とはトロント大学の社会学者で、カナダでも著名な移住問題研究家ホーキンス女史の言葉である。人口統計学的な見地からみても、所謂非白人系移住者の数は、全体からみて余りに僅少であり、彼等が実際に何等かの影響を、社会や政治に与えるには長期間が要るものだと彼女は言う。彼女は、人口構成図よりもむしろ移住者とホスト国の両者相互の受入れ体制を問題にしている。定住国に適応を強制されるのは、常に移住者や難民側であり、ホスト国或いは受入れ側ではないことが問題だ。実際にはホスト国、ホスト社会こそ移住者らがすると同様に、受入れ適応に努めることが必要なのだ…とホーキンス女史は説く。

彼女の調査によると、原住民を除く非白人系人種の数はおよそ100万人以下とみており、これはカナダ全人口の4%以下という。この様な少数にも関わらず非白人種の移住者に話題が集まるのは以下の様な理由があげられる。

非白人系人種は、外見から容易に白人種と区別されること、例えばここにチェコ人とウクライナ人がいても、一見してどちらがどこの国の人なのか分らないが、日本人とチェコ人ではみただけですぐその違いが分る。又もう一つの理由として非白人系人種は、大都市に同国人同志がまとまって住む傾向にあり(中国人街を作る様に)、これが実際の数より多くいる印象を社会に与える。

トロントの町は、北アメリカ大陸では、最大の各国移住者の住んでいる所であり、およそ50万人の非白人系人種が集中しているため、国全体の真の数値的印象より強い非白人系社会観を来訪者に与えても止むをえない。

ホーキンス女史は、カナダの最近の移民政策を自由主義にのっとった世界でも公平な良い見本と評している。カナダ全人口の構成は、3分の1がヨーロッパ系、次の3分の1は北・南・中米系、そして残りがアジア・アフリカ系の移住者により成っており極めてバランスのとれた例であるという。しかしカナダの過去の移民政策には、深い反省をしており、一世紀以上にわたる白人系人種限定の移民政策は偽善的なものだったと言う。オーストラリアとカナダの移民政策を比較すると、オーストラリアが白人系移民の優先を半ば誇りにとなえているのに反し、カナダは温情主義に撤した平等移民政策を公言して、他国から好評をえているが、真相は政府独断で国民の意見を無視する傾向にあり、自国の

恥となる様な盲点をかくし続けてきたことは遺憾であったと女史は言う。当然改善されるべくして現在の移民政策が出来たわけだが、時代の動きと共に世界の平和に貢献できるカナダの移民政策であってほしいと筆者は願うものである。

21. 技術専門職種の需要減少

(1982年10月報告)

非営利団体の職業紹介所として1969年以来活動を続けているトロントに本部をおく TECHNICAL SERVICE COUNCILが9月末にまとめた調査によると、1年前には、技術専門職種の空きが4,209であったのに対し、今年の9月末現在941と記録的な最低値を示した。これはカナダ全域にある1,700の雇用会社に対し、就職口のリスト依頼をCOUNCILが行ない、その結果分ったことである。

前述の記録的な最低需要数941の内訳中主な職種は、経験のある SYSTEMS ANALYSTS, COMPUTER PROGRAMMERS, そして MECHANICAL SALES ENGINEERS であった。

DATA PROCESSING STAFFは、以前には非常に不足していたが、現在は十分に確保されているという。又経験のある ACCOUNTANTS と PLANT ENGINEERS は、過去長期にわたり不足していたが、1982年には、要望が少なくなっている。

最近の調査で、特に需要の減った職種としては、PURCHASING AGENTS, CHEMICAL PROCESS ENGINEERS, STRUCTURAL DRAFTSMEN, CONSTRUCTION SUPERVISORS, INSTRUMENTATION ENGINEERS, ELECTRICAL ENGINEERS, ELECTRICAL DESIGNERS, MECHANICAL DRAFTSMEN, MINING ENGINEERS そして PERSONNEL MANAGERS である。

技術専門家達が多く解雇されている分野は、CHEMICALS, CONSULTING ENGINEERING, PULP AND PAPER, MINING AND OIL の各工業界である。ジュニアの GEOLOGISTS もかなり解雇されているが、油井発掘にいい記録と経験をもっている INTERMEDIATE-LEVEL の PETROLEUM GEOLOGISTS の要望は強いと COUNCIL はみている。

各種金属のコストの低下は、多くの鉱工業会社の踏査予算の削減を余儀なくしており、その結果地質学者らが続々解雇されている。

どんな職種でも、現在それについている人は、解雇がいつ自分に言い渡されるか、そんな不安を抱いている者が多い此の頃である。又失業した者が求職運動を始めても、見通しが見つからないために、求職運動をあきらめてしまう者も多い。この様な状勢下、ある求職者は、比較的安全な職業分野として政府機関や公益事業分野での仕事に応募する者が増えている傾向にあるが、彼等が必ずしも職を得るとは、全く保証されていない。

日系移住者の多くは、技術専門家である。カナダ社会では、少数民族の一つであり、決して多い人口ではない。それなのに最近移住者の集まりで耳にすることは、解雇された仲間のことである。専門技術をすててタクシードライバーになり、家族を支えている者、社会に出て働いたことのない家庭の主婦がウエイトレスを始めた、失業者同志の家族が、互いに対策を考える為集会をもっているなど、明るいニュースが乏しい。こういう時に移住者同志の集まり、トロント新移住者協会存在は、求職運動に具体的な援助は出来なくとも、何らかの形で仲間心の支えとなっており、以前にも増して移住者同志の交流が望まれている昨今である。

22. カナダ人からみたカナダ人とは

(1982年11月報告)

ハミルトン(オンタリオ州)に住むMRS FERNIHOUGHがウイニベグ(マニトバ州)に住んでいる息子のJACKから手紙を受けました。

DEAR MOTHER.

僕がまだ小さい頃、お母さんはよくお前はBRITISH SUBJECT(英国系)なのよ、とよく言っていたのを覚えています。当時学校の友人は皆、僕がBRITISH SUBJECTだという意味は、僕が英語に秀いでているのだと、今思えばバカげたことですが、そう考えていました。又お母さんは、僕が少し大きくなってからもよく、立派なカナダ人になるためには、フランス語を話さなくてはいけないからフランス語を勉強しなさい、と言っていたことも覚えています。

初めて家を離れてモントリオールへ行った時、僕の周りの人達が僕のことをSQUARE HEAD(英国人への軽べつ語)と呼んでいたのを聞き、この野郎!と思ったのですがすかさず、お前はFROG(フランス人への軽べつ語)じゃないか…と言いつつやりましたが、これを機会に2人でお酒をのんでいるうちに、すっかり友人になってしまいました。その頃僕は、カナダ人としての自分は、カナダでどういう位置にいるのか少し分ってきた様でした。又ハイフン付きカナダ人がいるという事にも気付いたのです。そして僕は自分のことをSQUARE HEADのカナダ人で、BRITISH SUBJECTなんだと認めている。

お母さんは、フランス語の勉強もよいけど、よいカナダ人となるためには、広い国土をよく見て回ることも大切だと言っていましたね。僕は友人から、東海岸地区に住む小ざっぱりした東部系の人達のことをよく聞いていたので、国内を見て回る第一歩は先ず東から、と思ったのです。そしてノバスコシア州のハリファックスへ行った時、ある酒場のバーテンダーが僕のことを、UPPER CANADIAN(上流階級のカナダ人)と呼んだのです。決して悪い気持はしませんでした。翌日ニューファンドランド州へ船で行ったのですが、その人達

の何んと粗暴なことノ 荒っ探い人達ばかりで、船から降りることさえためらっていたのに、僕の囲りにいた3, 4人が僕のことをBI (バイと発音、重、複という意味だが、ニューファンドランド地方の俗語でどりいり意味なのか筆者には分らない)と呼んだので、僕はその意味が分ったのでいきなり側にいた男の鼻っばしをなぐってやりました。おかげで刑務署入りになってしまったけれど、ここで分ったことは、刑務署では、誰でも相手のことをBIとよんでおり、僕はニューファンドランドという所は、本当にゲイ(GAY)の集まってる所だと思いました。

そこから僕は、ウイニペグの刑務署に移送されたのですがここに着いた日から皆僕のことをお前は東からきたEASTERNERだと呼ぶのには驚きました。BIよりずっとましですからね。ウイニペグで僕は、自分のIDENTITYは、SQUARE HEADのCANADIANでBRITISH SUBJECTそしてUPPER CANADIANでBIのEASTERNERだと思っています。トロントへ行ったらそこでは僕は、SQUARE HEAD-CANADIAN-BRITISH SUBJECT-UPPER CANADIAN-WESTERNERということになります。

以上の様な経験を通し、やっとのことで僕はCANADIAN IDENTITYが分った様に思います。北極熊が見られるという北緯60度近くのマニトバ州にあるチャーチルへ行った時、酒場である人が僕のことをWHITE MANと呼んでくれましたが、多くの人は僕のことをSOUTHERNERと呼ぶのです。僕はそこで又、自分はSQUARE HEAD-CANADIAN-BRITISH SUBJECT-UPPER CANADIAN-WEST-EASTERNERだと言い返したけれど、彼等から見ると僕はSOUTHERNERだそうです。

お母さん、僕は行く先々で色々な言葉で呼ばれ、又カナダのモザイク文化についても色々な人達と話していますが、此の頃思うのは、僕自身がONE MAN MOSAICの様に感じて仕方ありません。しかしひそかに、僕はカナダ人なのだと心から思っています。

WITH LOVE, JACK

23-1. サンタクロースへの手紙

(1982年12月報告)

ケベックの郵便局に、サンタクロース宛の手紙に対する返答係が設けられたのは、今から8年前である。

子供達が、北極のサンタクロースに手紙をかくクリスマスシーズンになると、きまって郵便局の中の〈配達不可能な手紙を集めているコーナー〉はその数を増し、子供達が折角真剣に書いた手紙なのに、誰の注意も引かれずに放置されていることに、ある職員が気づき何かよい方法はないものかと考えた。子供達の清純な気持ちに、出来る限り応える返事をサンタクロースの代理として書いてはどうかという発案者の意見に共鳴する者が増えたため、仕事の合間の昼食時に、サンタへの手紙に応える返事をかく係りが出来たのがそもそもの始まりである。

今年も、子供達が書いたサンタクロースへの手紙に返答しているカナダ全国の郵便局の職員や、ボランティアの奉仕者達は、いかに時の動きとは言え、今年程子供達の手紙を読みながら心を動かされた年はなかったといっている。

11月も中旬を過ぎる頃から、サンタ宛への手紙が各地から郵便局に届く。返答係りで働く人達は、郵便局の職員で事故等の理由で外で働くことの出来ない人達20人余と、外部の身体障害者で、特にボランティア奉仕を望む人達が共同して、セッセと一人一人に返事をかいている。サンタ宛の手紙は、カナダ各地からは勿論、遠く南アフリカやサウジアラビアの子供達のものも含まれており、今年すでに25万通余が集まった。サンタ宛の手紙は、普通鉛筆の走り書き、そしてスタンプ無しの封筒に入っており、北極のサンタクロースへと表書きされている。今年は去年の倍の数の手紙が、すでに届いているという。

サンタ宛に書かれたジョーン少年の手紙を紹介しよう。「北極のサンタさんお元気ですか？ 僕のお父さんの会社が今秋閉鎖されたので、仕事がなくなりました。失業したお父さんは、毎日家にいることがふえ、前よりムッリがちなりました。又お母さんが時々泣いているのを僕はみえます。家の中がとても暗い感じです。クリスマスには、僕用のプレゼントを今年は、ガマンするこ

とにしました。その代り、僕のお父さんにどうぞお仕事を下さい。これが僕の心からのサンタさんへのお願いです……」。

子供達の手紙を読んでいる係員が、特に心を動かされるのは、身体障害児や病気の子供からのもの。又離婚した家庭の子供達が、両親の和解を望むもの等、子供達の一途な気持ちに泣かされることが多いが、今年特に目立つのは、150万人余の失業者の中に数えられている親の元にいる子供達からの手紙である。例年の様にクリスマスソリーの下にプレゼントを期待できないことを知っている子供達の切ない訴えの手紙が多かった。カナダ史上最悪の不況が、サンタ宛の子供の手紙に如実に表われている。玩具がほしい子供時代に、自分達の欲しいものをガマンして、お父さんに仕事を、という手紙は多くの係員の心をゆさぶった。又今年は、玩具よりも生活必需品を望む者が多いのも目立った。ある子供は、毎日お腹一杯食べることが出来ないで、せめてクリスマスには、食へる物を沢山弟や妹にも届けてほしい、というものがり、係員は驚いていた。

今年届いたサンタ宛の手紙は、何れも悩みを訴えたり、暗いものばかりではなく、読んでいる丈で楽しくなるものもあり、子供達の無邪気な想像性によって、返答係員が一時的にも現実的な世界から離れて子供と同じ世界を漫遊できるのは、大人にとっても良い心の洗濯になる。ある男の子のサンタ宛への手紙には、一言も文章はかかれていなかった。その代り、クリスマスに欲しい玩具などのリストが4頁の紙にピッシリ!! 又とても思いやりのある女の子の手紙では、「サンタさん、12月24日のクリスマスイブには、わたしの家の暖炉で火をもやすので、去年アナタが入ってきた煙突からでは、今年ヤケドをするかもしれない。わたし、サンタさんのために表玄関のカギを開けておきますから、表のドアから今年はそっと入ってきて下さいネ、私の枕許にもソリーの下にも大きな袋がありますのでそこに北極から持ってきた贈物入れて下さい……」。又ある好奇心に富んだ男の子は、「北極のサンタさん、僕は長い間アナタがどんな家に住んでいるのかとても知りたいと思ってました。エスキモー人が住んでいるイグルーの様な丸屋根小屋を僕は想像していますが、どういふ所にアナタが住んでいるのか是非教えて下さい……」等々の手紙である。

手紙返答係りを今年ボランティアで手伝ったある女性は、この仕事にとっても生き甲斐を感じており、仕事をしている短期間に、人生の悲喜劇を一度に知ら

された様だと言っている。サンタクロースから返事はこないものとあきらめていたある小さな女の子の母親が、サンタクロースのサインで返事を受けた娘の喜び様に非常に感激し、郵便局の返答係の人達の善意にお礼を言うためわざわざきてくれたため、係員の女性は嬉し泣きしてしまったという。又そのあとで今度は同情泣きをした、という手紙の内容は、「僕、今年のクリスマスに僕の好きなチーズを是非もう一度食べられたらよいな、と思います。僕の家にはお金が余りないので、食べる物を沢山買えず、ここずうと僕とてもお腹がすいてるんです……」ここカナダの係員のすぐ身近かにこんな子供達がいたなんて想像もしてなかった係員は、改めて現実の深刻さを知らされている。サンタクロースへの手紙は、子供達丈が書いているのではない。孫を持つあるおばあちゃんの手紙はこうである。「今年は例年の様に孫に贈物をする余裕がありません。もし私から何も上げなければ、孫達が落胆するのは確かです。サンタクロースさん、どうぞ私を助けて下さい。孫達の家にあるクリスマスツリーの下に置くプレゼントをクリスマス前に是非届けて下さい……」。

手紙返答係りの仕事はケベックの郵便局だけではなく、今年はオンタリオ州にも、又西岸州、大西洋岸州にも出来て、善意の輪が広がっている。サンタクロースに対する子供達の幻想が、例えいつかはさめるものとしても、子供時代に受けた善意が果たす役割は、その子供の一生を通じて極めて貴重なものとなるに違いない。サンタクロース宛に書かれた子供の手紙には、子供にも分かる言葉で一人一人に返事が出され英語には英語で、という様に、フランス語、ドイツ語そしてベトナム語でさえも返事がかかっている。又盲人用の点字を使った返事もかかっている。(カナダ郵便公社の発表によるとサンタクロースへ手紙宛先は、「カナダ・北極」で良いが、郵便番号HOH OHOの記入を忘れないでほしい由。)

23-2 暴力の無い一日が、何よりのクリスマス プレゼントという人達

トロントに、INTERVAL HOUSE という母子の為の避難所がある。ここには夫や父親から暴力をふるわれて傷ついた母子達が一時的に身を寄せられる様管理されており、年中奉仕者により運営されているが、たまたまクリスマスシーズンに、ここで過さねばならなくなった母子にとっては、一時的とはいえ、久方振りに平和に満ちたクリスマスを迎えられることを喜んでいる。ここでは酔っぱらった父親が、折角皆で飾りつけたクリスマスツリーを倒したりする姿をみることはないし、又乱暴を働らいて妻に傷つけることが唯一のプレゼントだった苦い体験をせずにすむことを心から喜んでいる母子が多い。INTERVAL HOUSEには、今年のクリスマスに7人の母と夫々の子供達も加えて合計22人が滞在している。ここに不幸な人が突然出てきても、満員の今はこれ以上受け入れられない。

メリーという30代の女性は、ここに来る前バンクーバーに子供達と住んでいた。夫の暴動に耐えられず子供2人を連れてトロントに逃げてきたが、夫が後を追ってトロントにきており、機会さえあれば子供達を連れてバンクーバーへ戻りたい意向の夫から逃れるため、本名は公表できない。メリーのケースに限らず、ここに来る女性と関連した男性は、INTERVAL HOUSEを訪ずれば母子に乱暴を繰り返す者もあるため、母子の身の安全のためにも戸締まりは特に厳重で、四重の錠をかけて外部からの侵入に注意している。ここに泊っている母子にとっては、クリスマスというのは、即野蛮行為と恐怖にみちた悪い思い出に連なっていたのである。

同じくHOUSEに滞在している26才のシヤンターは、3人の子供と共にここですでに5週間過している。シヤンターの少女時代は、クリスマスは、すなわち楽しい家庭の団楽と連った思い出に満ちたものであったのに、結婚をしてからはクリスマスの印象はがらりと変わり、クリスマスシーズンがくると憂うつでならなかった。というのは夫が働らく乱暴にガマンできず、家出を決心するまでに長い年月がかかったが、今年は久し振りに、恐怖と縁のないクリスマスを迎えられるのはとても嬉しいとシヤンターは言う。

暴力の無い一日が、何よりのクリスマスプレゼントという人達

クリスマスシーズンになると、学校は休みとなり、職場もクリスマス休暇に入るため、家族の皆が家に集まることが多くなり、そのために家庭団楽の正しい方法を知らない家族の者は、酒をのんだり、暴力をふるったりする。こんなことが何回か毎年繰り返されているうちに、家庭崩壊の基礎ができてしまい、結婚生活の彼綻へと迷ってしまうのである。夏の間ならとにかく、冬期間、特にクリスマスシーズンに母子で家出をするということは、一時的な思い上がりとか、いい加減なものではないことがよく分かる。家族団楽が一番望まれるクリスマスシーズンに、例え居心地がよくとも INTERVAL HOUSE に寝泊りしていることは、矢張り異常である。しかし他にゆく所のない母子達と HOUSE の職員は、クリスマスの間丈でも心静かな時を持ってほしい、と弁護士や裁判の件は一時お預けでクリスマスを祝うことに熱中している。今年は沢山の玩具、衣類、食物の寄贈があったし、役員と母親達の愛をこめた各国特有のお料理を夫々作って、ささやかながら国際的クリスマスパーティーを、平和な心で子供達と出来たら今はこれが何より最高の幸せです。と母親達は言う。

カナダに住んでいる人でさえ仲々信じられない数字を紹介しよう。カナダのある真相である。

- 1978年約50万人の女性が(10人に1人の割合)一緒に住んでいる男性によって暴力を受けていた。
- 離婚を望んでいる者の中、1/4は肉体的な乱暴に耐えられず離婚を決心した。
- INTERVAL HOUSEにくる女性の10人中8人迄は、彼女らが妊娠中に暴力を男性から受けたと告白している。
- INTERVAL HOUSEに暴力を理由に逃れてきた人達は、その1/3が週毎に、又は毎日乱暴を受けていたとっている。

24 高度技術時代に対応する産学共同の体制

(1983年1月報告)

ここカナダでは、マイクロエレクトロニクス時代の到来により、新技術に追いつくことの出来ない、所謂旧来の技術しかもっていないため失業する者が増えている。この様なカナダの現状を当地のグローブ・アンド・メール紙は、その核心をつき乍ら事象分析のシリーズを1月に入ってから何度も連載した。その中より産学共同による新時代への対処についての記事をここに抄訳する。

トロントにあるカナダでは最大の規模をもつハンバーカレッジの学長ゴードン氏の言葉によると、カナダの各カレッジではマイクロエレクトロニクス時代に対処するカリキュラムを組んで、社会の要望に応える体制に入っているが、ここで新知識や技術を学んだ学生が卒業後これらを100%生かす機会が与えられるのかどうか疑問を抱いている。というのは多くの新卒が職をえられずにいる現状であり、又例え職をえても今の様に急速に進展する技術界の動きをみていると、カレッジで教えた技術も多分5~10年で役に立たなくなるのではと案じている。カレッジのカリキュラムは、現在最も要望の高い技術を教えたり、又旧技術しかもっていないために解雇された人達の再教育を考慮に入れたものだが目先丈の判断で広い観点から技術の進展を予見することに欠けているのではないかと。

マイクロテクノロジーが産業界は勿論事務系職域にもどんどん侵入してきていることを、政府関係者や教育者は知っておりそのためにこれらに対処するタスクフォース委員会を設けて、新技術の発展やそれに伴う諸問題の調査研究をしている。ここで分ったことは新しく開発された精巧機器の製造や操作、又その修理等をする人材の特別養成機関が必要であるということ。同時に新技術導入により不要になった人達 - 主に単純技術者 - をどこにもってゆくかという問題があることだ。又タスクフォースが直面している大きな問題は、時の動き或いは技術の発展分野を十分に正しく予測してそれらを労働市場に反映する予見の困難性である。因みに1970年代の初めの予測では、多くの教師・看護婦そして工学技術者教育の必要をみて大学に働きかけたものの、卒業生の多くが

職をえられなかった…という予測はずれの実態をいまだに反省している。

従って政府関係筋では、新時代の要望に応えるために多大の投資をしなければいけないことは分っているが、信頼性のある予測が出来ぬ限りそこに公共投資をすることはばかっている。

マイクロテクノロジーは、工業業界に入りはじめたばかりである。そして時折しもカナダは景気後退に深入りしているが、多くの工業界では働らく人に代る新技術を採用することで生産力の改良を計る方法を追求することになる。工業界の企画部門の人達は新技術により置換される労働者の問題にも配慮はすすめているものの、新技術導入に伴って創造される職域により関心をもっている。

最近の調査によると、カナダの乗用車・トラック等の組立て工場12のうち10ヶ所ですべてにロボットを採用している。代表的なロボットについて言うとその操作費は1時間当たり約5ドル弱であり、これを人間がしていた場合は平均15~20ドル/時間である。ロボットは人間よりすべての点で有利であることをオンタリオ州の労働省では認めている。自動車工場でのロボット採用により、非技術労働者695人が職を失なうけれどその代り1981年から1985年の間には、新しく45の新技術職が創造されるだろうとみている。この様な技術革新により多くの人が心配している解雇はおきないだろうという。ある者にとっては再教育は必要だが、同技術レベルでは比較的容易に再教育を受けられるのでロボットに置換された人達も新技術を体得することにより同じ会社内で再採用になろうという。

1982年には、各種の工場閉鎖により多くの失業者が出たが、彼らは技術革新の波にのらずに一般に同系職種に仕事を見つけて働いている者が多い。又再教育の必要を認めてそのコースを選ぶ者も一般に旧来の職業訓練コースをとる者が多いという。失業した人達にとっては高度技術系の分野は、修得するためには容易ではないと判断する者が多く長年熟知した分野に出来れば再就職したいと望んでいる様だ。このグループに属する人達が新分野に挑戦するためにはまず英語や数学の再学習又は改善が必要である。つまりわずかの教育しか受けていない者が多い…とはカレッジ・大学局のミラー氏の意見である。ミラー氏は又政府や教育機関では再教育のプログラムを十分に用意することは出来るの

だが、失業者自身が現状をよく理解して他の人達とのハンディキャップを克服するために勉強をしようという動機をもってもらうためには、永久に人生での競争はむりだろうと言う。

カナダの各州には必ずコミュニティーカレッジがありその地域に即応した技術コースをもっている。その中でもオンタリオ州は諸工業の中心地である丈に応用技工系の訓練を与えることでは定評がある。オンタリオ・カレッジ・大学局では工業技術系のカレッジカリキュラムに関する特別委員会を設け時の動きを監視しながら教育方針をきめる役目をしている。又工業界や教育界、さらに政府の人達と一緒にあって職業訓練に関する指示を与えるグループが、オンタリオ州にはあり、60ヶ所の工業センターに工業地区トレーニング委員会を配分している。州政府は各地域の業界雇主とカレッジが共同して使用するトレーニング補助資金を与えておりこれをフルに活用しながら、会社は2～3年間の需要を検討しカレッジではそれらに順応するといった方式をとっている。工業界に新技術が入ってくるとそこで働いている者は会社が計画した特殊技術コースをとるため働きながらカレッジでコースをとる。そういう人達が非常に多いオンタリオ州である。

オンタリオ州にある22のコミュニティーカレッジを管轄しているある団体のカウンセラー、ウィリアム氏によると昨年4月1日から10月31日に迄に州のカレッジで13,323人が720のトレーニングコースをとったという。産業界からのメンバーシップ制で作られている諮問委員会がカレッジのプログラムに責任をもち、その地域で必要とするものに適合するような教課を提案する。カレッジではその地域で可能性のある職業機会と主要雇用主のリストを作りそれによって新しいプログラムが州の承認を受けて、はじめて一般公開ということなるわけだ。この様な手続きは、オンタリオ州では新しいものであり、各地域の需要供給をスムーズに反映することになる。カレッジの卒業生が職につく機会が少ない場合には、そのコースはいつ迄も存続させずキャンセルにする、といった事態に順応した積極性をとることによりカレッジの評判も改善されることになる。現在オンタリオ州のカレッジには60万人のパートタイムの学生がおり又30万人の成人が職業再訓練用のコースをとっている。フルタイムのプログラムをとる学生が減少の傾向にあり(学士、博士号をもっている

高度技術時代に対応する産学共同の体制（1983年1月報告）

者より特殊技術をもっているカレッジ卒の方が仕事をしやすい現状のため）、カレッジでは成人のための再教育コースに一層の力を入れることになろう。

25. 移住者による「友だちになろう」という座談会

(1983年2月報告)

カナダでの日系人同志の交際というものは、日本のそれとはかなり違う様に思う。日本では同じ職場の人とか、同じサークル、同じレベルの人達との交際に限られているが、ここでは日本各地からの色々な職業をもった人が、年令の差も加わって集まっており、日本とは伝統も文化も習慣も違う国で、同じ日本人ということ丈でグループ化されている。この共通性を除けば、日本に住む日本人以上に同じ職業の人でも、同じ郷土の人でも考えや生活の仕方に大きな相違を感じる所がカナダである。移住を決意した程の人達だから、個性も強いし新しい国での様々のストレスと戦っている人達は、ここで日本人同志で交際をする際には、日本の積りで交際をしていると、遅かれ早かれ幻滅を覚える。ここではお互いを十分に理解する寛容性と妥協性、時には融通性等を日本にいた時以上に要求される。それを出来ない人達は、ある意味でコミュニケーションの能力が欠けていると見なされ孤立してしまうことになる。それでも強く生きてゆかれるのならよいが、所詮この世の中は一人丈では生きてゆけない仕組みになっている。日本人同志だからこそ素直に反感を覚え、疎遠になってしまったり例も多い。しかし生身の人間、すべてが順調にしている場合はよいが、自分の力ではどうしても解決の出来ない事態におち入ることも多く、そういう時に日頃友人と思っていた英語で話しあっている人がどの程度まで理解してくれるか、むしろかつて反感を覚えた日本人が誠意をもって窮地を救ってくれることもありうる。やはり同じ伝統文化をもつ日本人同志は、意志の疎通も容易だし、精神的な理解の度合いも他国人より深いだろう。従ってここカナダでの日本人との交際は、非常に大切なことだが、それ丈にとっても難しいものだ。よい関係を育てるには、お互いの努力を続けることと、前にもいった寛容性が要求されることになる。積極的にこれらの機会をとらえ、自ら努力出来る人はよいが、残念乍ら多くの日本人は、比較的消極的で誰かが機会を与えてくれるのを待ち、例え機会がきても前向きな態度で良い人間関係を育てる努力をしようとしなない。

移住者による「友だちになろう」という座談会（1983年2月報告）

従ってこれらの機会を新移住者協会が与えようと、今回初めて協会主催による座談会が実現した。以前には、協会プロジェクトの一つが、同様の座談会を2回もっている。協会が今迄行ってきた大きな行事としては、新春芸能大会や紅白歌合戦などあるが、移住者全体の生活安定というファクターも手伝い所謂新しい移住者を対象のプロジェクトは、協会が正式に発足（1976年）以来、昨年初めてトロント在住者の好意によるホームステイ制度という、日本で移住を希望している人達への一時的な家屋開放が起きた。カナダへ到着後の住宅、食事の面倒を一時的にしてあげようというものである。協会の活動は、すべてボランティアワークで、夫々本職と家庭を持ち作らの活動のため、そのワクにも制限があり、何より人手不足は大きな障害である。

前おきが大変長くなったが、去る2月26日、土曜日、午後1時半より5時すぎまで、日系文化会館で「友だちになろう」というテーマの座談会を行なった。今年の冬は異常に暖かく、座談会当日は春日和、余りお天気が良すぎて人が集まらないのでは、という不安もあったが、1980年前後に移住した新しい仲間が15人、それに比較的長年住んでいる仲間が25人と、夫婦、子供達も加えて沢山集まってくれた。まず移住者協会、会長の三枝氏より挨拶、友達には色々な種類があるとて、益者三友、損者三友の言葉を引用して、友達の必要を説いた。その後出席者各自の紹介があり、出身地、滞在年数、職業等をのべて頂いたが、新しい移住者では、仕事についている人より現在仕事を探している人や英語学校にいらっている人が多く、古いグループでは、殆んどが職についているが、中にはここに住んで10年近くになるのに、失業の憂目にあつた人の告白もあり、新移住者が仕事につけないと苦勞している以上に、もっと厳しい体験をしていることが話された。自己紹介で同郷、同職を知り、近ずきになった人も多かった。

自己紹介後、協会に所属している各団体、クラブの紹介があったが、当日は野球部、フリーランスの会、日本語学校2つ、ゴルフ、スキークラブ、伝統文化の会、そして音楽グループ、又協会元役員により作られているOB会の背空クラブの紹介もあった。新しい移住者に、移住者協会の輪廓を理解して頂けたと思う。

次にオンタリオ州労働省、女性局より借りたスライドとフィルムの上映を行

なった。スライドは、「YOUR RIGHTS AS A WORKER IN ONTARIO」という18分の英語による応答形式でオンタリオ州の労働条件やそれに関連した諸問題をわかり易く解説したものであり、新しい移住者はもとより、ここに長く住んでいる人にも法律を知る上でよい機会を与えたものと思う。少し固いスライドのあとは、ぐっとくだけて諷刺映画「THE FABLE OF HE AND SHE」という11分のフィルム。これはアニメーション化された男と女と子供達の物語りで、当日出席していた子供達も十分楽しめた。男達は、家建てたり、狩猟しか出来ず、女達は、子供の世話とお料理しか出来ない。ある日突然のストームで住んでいる島が2つにわかれてしまう。男達は子供達と一つの島におきざり、女達は他の島に離され初めて夫々が、新しい生活を強要される。失敗や戸迷いを体験しながら男達は、お料理を覚え子育てをする。女達は住宅をたてたり食料をさがすということで、今迄知らなかった世界を知り、男女共に相手の立場をよく理解出来る様になり、最後のシーンで、相互に再会、幸せな人生を送れる様になった、という話だが、我々の生活で最も難しい結婚生活や人間関係は、相互の助け合い、理解し合いにより好転するといいまじめなテーマを軽いタッチで暗示しており、願わくば多くの当日の出席者が、この映画より何かを学んで頂ければ有難い。

映画観賞後、映画の感想を話し合い、次に出席者が直面している色々な問題を気楽に提出してもらうことにした。今回の出席者を大きく二つに分けると、一つはここに住んで日の浅い人達と他は長い人で17年だが、平均して10年前後の移住者である。

まず新しい人達の意見からのべる。当日出席した人達の中で一番最近の人は、ここに住んで2ヶ月という人、来たばかりの人は、精神的にも肉体的にもカナダの環境に適応するため、非常に不安定な時期にある。友達や他人からのサポートを一番求めている人達、毎日の生活で今何が一番大切なことなのか、自分は何をどの様にすべきなのか、迷いの多い人達である。ある人が移住者協会は、もっと新しい移住者の要望に応える様なプロジェクトを持つべきだといった。英語で知るより日本語の方が分りやすいし、又各職種の人達の経験談を通しての新移住者との相談会をもっては、という声もあった。頼れると思って同郷の人に電話をしたら、日本人とはつきあいたくない、といって電話を切

られたという話。これに対し、長年ここに住んでいる先輩は、今の移住者は、依頼心が強すぎる。積極性が乏しい。何故英語をそんなにおそれるのか、移住前に十分な用意をしてくれば、日本食店がどこにあるのか、どこでどの様な情報をえられるのか、日系人の情報がうまくえられない等と言うことはないはずだ、これは10年前の教育の違いか、考えの違いか、移住ということをもっと真剣に考えてきてはどうか、という意見も出た。又協会に何かを期待する前に、何故自ら参加して期待する様な協会にもってゆくという熱意がないのだろうかという意見も出た。又ある新移住者は、来た当初は日本語で情報をえられるものなら、それをほしかった、移住者協会が自分の力になってくれるものなら、と思って2,3の人にあってみたが役に立たぬことを知り、結局すべて自分の力で開拓したことが、今考えるとむしろ良い結果を生んだことが分った、と協会に感謝している人もいた。前にも述べた様に、現在協会で活動している多くの人が、カナダへ来たころは、移住者の集まりは今より土台は弱く、又何もない所から生活をはじめた人が多い。協会はやっと最近活動の輪を広げつつある状態になった。従って今日提出された多くの話題を整理して協会活動に取り入れ実行するには、新しい移住者の積極的な参加、協力なくして実現できるものではない。

新しい移住者達に比べ、ここに長く住んでいる人達の関心は、家庭をもっている人が多いため、子供の教育、とくに日本語の問題であった。カナダに来た当初は、子供も小さいこともあり、子供の環境は、家庭にしぼられ、親子のコミュニケーションも日本語で通じるが、子供の成長につれ子供の環境は自然と英語の世界に入ってゆく。大人より早く英語をマスターする子供達にとっては、日本語が日増しに難しいものとなり、ここで特に母親が英語のポキヤブラリーに限界があると、コミュニケーションに壁を感じる様になる。子供の日本語は、トロントにある二つの日本語学校 - これは移住者の経営によるものだが - を利用することにより教育の機会はあるが、大切なことは親子との上手な歩みよりで、子供には日本語を教え、子供から英語を学ぶという態度も必要だという意見があった。英語にとりまかれている環境で、日本語を学ぶということは、子供にとっては、大変なことであるが、同時に親も特に家庭に同じこもりがちな主婦にとっては、英語を学ぶことに、男性以上に努力が要るのではないか。日本語の子供への教育については、学校はもとより家庭でも責任をもつべ

きであり、休暇を利用して日本へ親子で帰る機会をもつことは、非常によい効果を与えると経験者は語った。子供にある程度の判断力がついた年頃になれば、日本語の教育の継続は、その時点で子供の意志に委せてもよ、という意見も出た。又ある母親は、子供が成長して英語の世界にドブプリつかり、自分の英語力にも限界があり、親子のコミュニケーションが一番大切な青春期に、親子の意志の疎通が出来なくなるのでは…と不安をのべた。幸いトロント地区には、50年程前に移住した一世のグループがあり、彼等は我々が直面している子供の教育については、大先輩であり、協会との諸交流が多いので、今後は協会と一世部との会合も、子育てをテーマに持ってもよい時期にきた様だ。

戦後の移住者により結成された新移住者協会の年令層は、今では30年の差があるといってもよい。時代の相違もあり、今回の様な座談会を行うと、考えや生活態度に明らかな違いをみられるのは当然だが、同じ日本人の為のグループとして、この様な組織が健全に育ってきたのは誇りである。移住者協会は、ここに住む日系移住者の親睦をはかるばかりでなく、当地に以前からある日系諸団体との交流も欠かせない活動の一つであり、これらとの両立を常に考え乍ら、新しい時の動きに応じた活動に輪を広げ、協会自体の質の向上に努めることは、日系移住者の為になるばかりでなく、広くカナダ全体に住む他民族の社会やカナダ社会にも貢献することになる。

現在の協会は、今回の様な座談会を定期的にもち、各人の協力を仰ぎながら共に向上してゆきたいと願っている。又我々が昔に苦勞したことは、さげられるものなら新来者にはさせたくない、という親心も会は十分にあり、今回の会合を意義あるものとするために努力する姿勢でいる。

カナダに来た当初は、理解出来ない日本人とのつきあいや、生活の仕方も時の経過と共に各自が体験を通して分ってくるものであり、日系人各団体の存在や、価値を少しずつ認識できるものと思つ。言うことは容易だが、どんなことでもそれを実行に移すことには、想像以上の努力と強い意志が要るものであり、この様な自己修養を出来るのもカナダに来て、協会活動に参加することによって可能となるはずであ

座談会で予定していた、共に歌かひの部門は、話題が途切れず出続けた為、出席者全員にその機会を与えることが出来なかったのは残念だった。しかし重

移住者による「友だちになろう」という座談会（1983年2月報告）

いカラオケセットをわざわざ今日の為に運んでくれた役員の好意に応えるため、居残っていた人達で歌いまくり、ある新移住者は、マイクを片手に歌った後で「今日は日頃胸にあることを全部しゃべれたし、歌もうたえたので、気分がスッキリした。明日から又仕事探しにがんばれそうですよ！」というのを聞いて主催者側の苦勞は、吹っとんでしまった。

26. 女性に関する話題（1983年3月報告）

1. 離 婚
2. コンピューター時代と女性職

1. 離 婚

最近発表された離婚に関する統計を示そう。

今カナダで、結婚を考えているカップルの40%は、離婚裁判所の世話になるだろう……とは、統計局の予想である。

少し古い統計になるが、1979年には、カナダの離婚率は1968年に比べ500%も上昇したと言われ、これはかなり高い数値だが、1968年にカナダの離婚法が緩和されたこともあり、急増したものと考えられる。

カナダ人が1970年代に、離婚のために払った法廷費用は、500ミリオンドルでこのかげには、50万人余の子供が両親の犠牲となったという。

離婚した4人のうち、3人は再婚した。

離婚の手続きに、一番時間のかからない所が東部のMARITIMES（ノバスコシア州などの沿海州）ここは又離婚率が最も低い。これに比べオンタリオ州は、離婚の手續に長期を費す所、人口が多いことで離婚件数も多いのだが、それよりもオンタリオ州では、児童保護法が幅をきかせているからだ。アルバータやブリティッシュ・コロンビア州は、離婚率の高い州といわれる。

離婚の原因の内訳は、1975年のオンタリオ州の統計によると、夫の飲酒暴力によるものが36%、相互の意見、性格の不一致は20件のうち1件の割だった。離婚ケースの3分の2は、妻からの申し出によるものだった。

多くの離婚は、裁判官に逢う前に2人の話し合いがついており、裁判所では書類に印を押すだけだ。

今から20年程前には、離婚をしたとか、離婚をしているという話は、極めて稀なことであったが、1960年代を境いに離婚が徐々に増え、今では離婚を普通のこととして扱う様になってきた。誰でも身近に1人や2人の離婚者を知っている、そんな時代なのである。しかしこの様な時代とは言え、離婚する2人は勿論、家族や親戚、友人にとっては悲劇であり、さけられるものならさけたいことである。特に女性にとっては、いかに女権が昔に比べ強

くなったとは言え、男性支配の社会故、犠牲も大きい。

この様な時代の反映として、離婚を扱った映画、例えばKRAMER VS KRAMERとかAN UNMARRIED WOMANなどが巷の人気をよみ、新聞の人生相談欄にも離婚に関する話題が、数えきれない程多く公けにされていること等は、20年前には考えられなかったことである。

トロントに住む日系移住者の間では、離婚は余り公けに話されないが結構多い。

白人と結婚したが、共に生活を続けているうちに、伝統文化、習慣の違いに妥協出来なくなり、子供と妻を残して、半ば精神病にかかって帰国した男性、日本からよびよせた相手の女性がカナダに憧れてきたため、肝腎の男性を正しく理解することが出来ず、わずかの期間ですぐに帰国した女性、幸い子供がいなかったので、2人の傷手も軽かったようだが、子供と男性を残して帰国した女性の例もあり、残された子供と男性は大変な苦勞をした。又日本で結婚し、3人の子供を連れてカナダへ移住、生活環境になかなかなじみず異国でのストレスに打負けて、妻と子供3人を残して結婚生活に終止符を打って帰国した男性など様々である。

日本にいたらとっくに離婚しているかもしれないカップルも、カナダだから共に暮らさなければいけない、ということで結ばれている人達もいる。カナダでは、日本とは違って2人の結婚を拘束するような親や親戚などのきずながないため、日本にいるより容易に破綻を経験する例も多いが、概して多くの日系移住者は、カナダという異国に住む特典を上手に活かして、非常に幸せな家庭生活を送っているものが多いのは事実である。

2. コンピューター時代と女性職

日本でも同じと思うが今カナダの子供達は、ビデオゲームに熱中している。PAC-MAN, ATARI, そしてSPACE INVADERSはすごい人気がある。これらと遊んでいる多くは、無邪気な顔をした男の子達。女の子をさがすのは一寸無理。オンタリオ州の労働省、女性局の人に言わせると、ビデオゲームをしている男の子達は、将来、大きくなってからコンピューターに関係した仕事につくための準備を始めていると見ている。女の子は一般に、戦争と

か、競争の遊びを好まない。しかし女の子達は、成長した頃必ず直面するであろう、コンピューター時代に必要とされる知識の習得をさせている。或いはその機会をにがしているのではないか？ 幼少期にコンピューターとの出逢いの経験を持っている者は、成長期に容易にその世界に入ってゆけることになる。コンピューター革命時代の到来は、すでにきているし、その時代に生きのひられる者は、その用意をしてきた人達だ…とは、今月カナダで行われていたINTERNATIONAL WOMEN'S DAYのセミナー「女性職とコンピューター導入による影響」で講演した、グレイソン女史の言葉である。

今迄もそうであった様に、今の時代でも尚、女の仕事とされている事務職や秘書の仕事口には、多くの女性が集中している。これらの仕事はすでに、コンピューターにより置換されつつあるのだが。

因みに1980年代の後半迄には、銀行で行なっている顧客サービス部門の仕事の80%はコンピューターが人間に代って行なうことになるだろうという。

カナダへ移住してきた多くの日本人がまず驚くのは、カナダのデパートや銀行で働いている女の人が多いことであり、又若い人より家庭をもっている主婦や中年、時に高年者が多いことだ。若い女性はどこで働いているのだろうか？ などと心配している日本男性がいた。

銀行が女性の働く所なら、電話局も又しかり、とくに金銭出納係りで男性をみかけることは、まずないといってもよい。カナダの電話局では、過去2年間に、金銭出納係りの40%は、コンピューターの導入により人員削除が行われた。この様に職場へのコンピューター導入により、一番大きな影響をうけているのが女性。男性は女性程新時代の影響を受けていないという。

前述の講演者、グレイソン女史は、セミナーで出席者に訴えた…「学校の教師や娘をもつ母親は、女の子にコンピューターになじませる様努力をしてほしい…」と。現在高校の女生徒で物理や数学のコースをとっている者は、以前に比べてかなりいるが、同じコースをとっている男生徒に比べると、その数は半分にも満たないという。

今カナダの医学界で話題になっているものに、VDTという言葉がある。これは、VIDEO DISPLAY TERMINALSの略で、現在事務職その他

の職場で使われているターミナルからは、放射能がでるということで、女性が主に扱うこのマシンは、妊婦の胎児に及ぼす影響があるのではないかという。電話局の女性が発言して以来、大きな話題となっている。これらについては、確かな情報や解答がなく、ある専門家は無視しているが実際には、VDTのオペレーター15%の者が頭痛を訴えている。さらにVDTの前で1日2時間以下働いた者は、その8%の人達が頭痛を訴え、一日中VDTの前で働くと、22%の者が頭痛を訴えるという数字が出ている。

とにかくコンピューター時代に備える為に、今事務職関係についている女性、又将来の仕事を考えている女性にすすめていることは、各カレッジにあるコンピューターに関連したコースを是非受講することである。これは、職業のためばかりでなく、将来各家庭にテレビの様に採用されることになるという予想もあり、コンピューター用語になじむことは常識とされるだろうからでもある。

現在、職業相談にくる多くの女性は、彼女等がもしコンピューターに関する基礎コースでも修得していたら、十分にこなせる職業があるのに専門用語を知らないばかりに、よい機会を失なっているともいう。

最後に私がカナダへ移住した13年前に比べると、カナダの技術革新の度合いは急速に進歩した。勿論日本程ではないと思うが…。私が現在従事している政府の化学分析部門では、分析機器のコントロールは殆どがコンピューターであり、新しい技術を学び、その知識をうることに努力を続けられない限り、失業してしまう。

移住を考えている日本人達は、職種の生存率を考え、時代の要求に応じた技術の基礎を日本でつけてくること、そしてカナダで再び、ここの教育をうけることが不景気でも尚、職場進入の機会を可能にするのではないだろうか。

27. ある婦人団体の活動について

(1983年4月報告)

移住と婦人団体の活動の間にいかなる関係ありや…と不審に思われる方のために本論に入る前に私見をのべたい。

移住をする人、と言う場合には男性も女性も含めていうが、実際に移住を実現させる人の大半は男性である。しかも彼等は家族持ちか、或いは独身者といえども、やがては日本かカナダで結婚する人達だ。従って移住とカナダの婦人問題は関係があるといいたい。又現在の社会組織は、もともと男性支配社会の遺物であり、多くの社会機構や考え方が男性対象になっている。そのため婦人運動の長い歴史に関わらず、社会で婦人問題が男性の諸問題と平等に扱われるには、まだかなりの年月を要するだろう。しかし例えば社会の諸問題の一つとして政治、経済又は文化をとってみても、これらは皆男女両性に関わるもので、ある人がこの世の中に婦人問題等と特別扱いするものはないと言っていたが、もしそうだとしたら婦人の問題は、即男性の問題ともなる。カナダの婦人問題は、ここ10数年マスメディアをにぎわしており実際に婦人問題は沢山あるのだ。したがって私は、今日本でカナダ移住を考えている男性が、真に移住先国で仕事も含めて生活全面で成功するためには、当地の婦人問題をよく知っておくべきだ…というのが今回の記事の趣旨である。

トロントに本部をおく「婦人の地位向上に関する全国活動委員会-NATIONAL ACTION COMMITTEE ON THE STATUS OF WOMEN」は、文字通り婦人の地位向上のためにボランティアで積極的に動いているフェミニストのグループである。略してNACと呼ばれておりカナダでは最も活発な婦人団体である。NACの傘下には約250余のカナダ全国に散在する婦人団体が属しており、これらの団体には、全国的なネットワークをもつものや、地域的に限られた団体等多彩である。昨年創立10周年を祝った。

1 NACは何をしているか—

婦人の地位向上に関する諸問題をまとめて、各団体の要望を国会へ代弁する、つまり陳情をするというのが大きな仕事の一つで、これが出来るという

ことは極めて強い組織と力をもつ団体の証拠である。

又所属各団体の婦人問題を旬刊ニュースレターにして公開したり、マスメディアで話題となった事態を即刻探究分析してそれらに反応すると同時に情報伝達をしたり、全国各地の団体間のネットワークを強めて情報交換を行い集会をもつ等が主な活動である。

2. NACが現在対象としている婦人問題は -

- ① 多くの婦人は、男性より低賃金で働いている。
- ② 婦人が特に必要とする社会サービス部門では資金不足に悩んでいる。
- ③ 高令婦人や婦人世帯主の多くが貧困者のグループに属している。
- ④ 次の世代を育てるという価値ある役割を果たしているのは主に婦人であるのに、老齢年金や税金の面では、一向にその報いを受けていない。
- ⑤ 一般人が利用できる託児施設が少ない。
- ⑥ 極めて限られた職場以外の、多くの婦人は妊娠手当を受けられない。
- ⑦ 産児制限に関する相談所が十分でない。
- ⑧ 暴力の犠牲対象は主に女性である。
- ⑨ インディアンの法律では、女性の権利が全く無視されている。つまりインディアン以外の人種と結婚した女性は、インディアンの籍から除かれ生まれた子供もしかし、又未亡人になってもインディアンの社会に戻ることが出来ない。
- ⑩ 公的機関において、最終的決定権を握る地位についている婦人は極めて僅かである。

3. NACが現在目標としている問題は -

前項にあげた諸問題の改善をはかること、つまり

- ① 国や州に関係なく、男性と同等の仕事をする者には、男性と同じレベルの賃金を払うべきである。
- ② 男性を受入れる職場は、女性にも開放されるべきである。
- ③ 婦人のためのサービス機関、例えばカウンセリング、トレーニングセンター、保健関係、或いは緊急宿泊所などに対し、政府は十分な補助金の交付を行うべきである。
- ④ 家庭の主婦にも収入の確保と社会保障制度の適用拡大を望む。

-
- ⑤ 結婚において妻とは、社会的にも経済的にも男性と同格の配偶者であるという定義を認めさせる。
 - ⑥ 産前産後の手当金の交付
 - ⑦ 誰でもが利用できる託児施設の創設
 - ⑧ 性暴力法案の改善
 - ⑨ 墮胎は個人の自由意志により行なうべきものである。
 - ⑩ インディアン女性には、男性と同様の人権法を適用させること。
 - ⑪ 公職に適任女性を多く採用させること。
 - ⑫ この地上に生命を絶やさず保存させるために、核の脅威に対し暴力によらないフェミニスト的方法で反対し、平和的な解放をすすめる。

4 NACに所属する団体とは —

250余の団体をここに全記することは出来ないが、例えばトロント周辺ではどのようなグループが所属しているか大略する。

トロント周辺だけでも100余の団体が加入しており、例えば各種教会の婦人団体、大学生クラブ、教員協会、管理職についている婦人団体、婦人科学者クラブ、ウクライナ・カナダ婦人グループ、そして労働組合員等多様である。又オンタリオ州として組織をもつものには、各地の託児所、州教員協会、専門職についている婦人グループ、移民女性センター、政党内婦人委員会、ユダヤ婦人会、婦人書籍店グループ、大学婦人クラブ等があり、これらは全体の極く一部である。

5. 私はバーリントン地区のUNIVERSITY WOMEN'S CLUBに属しておりこれは大学出身者（どこの大学を出たかにこだわらない）の集まりで数々の研修プロジェクトを持ち月に一回の会合の他、地域社会にセミナーを公開したりしている。私は今年初めてクラブの代表としてNACの年に一回の総会に出席する機会もったので、総会のあらしをのべたい。NACは年に一回の総会をいつもオタワで行なう。これは総会で議決されたことを国会議員に陳情することがきまりになっているので議事堂のあるオタワが総会の場所となっている。今年は去る3月25日から28日迄の4日間、議事堂に近いホテル、ホリディ・インの2階を全部かりきって行なわれ、約300名近い全国各地の代表者が集まった。第1日目は会長である元CHATELAINE

というカナダの婦人雑誌の編集長であったDORIS ANDERSONが開会の言葉を次いで会計報告や規約の説明。そして各プロジェクトグループが年間に行なった活動の報告をした。又役員改選期なので各執行部候補者の紹介と演説があり夜10時すぎに散会。

第2日目は、各プロジェクト役員による研修会の議題の進め方の説明後、総会出席者は、夫々の専門分野にわかれて研修会を行つた。研修会つまりWORKSHOPSには、1) SOCIAL SERVICES AND FED/PROV FUNDING 2) JUSTICE (PORNOGRAPHY PROSTITUTION), 3) SURVIVAL (DISARMAMENT), 4) HEALTH (FAMILY PLANNING, ABORTIONS) 5) EMPLOYMENT, 6) ALLOWANCES AND TAX BENEFITS FOR SPOUSES AND CHILDREN, 7) NATIVE WOMEN 8) NAC CONSTITUTION 等がある。私はSURVIVALのグループに出席したがここでは核反対に関するフィルム「IF YOU LOVE THIS PLANET」と「THE LAST GENERATION」という何れも日本の原爆被災者が対象となっている映画をみたのち活発な意見の交換をした。

第3日目は、執行部の新役員選挙に半日をつぶしその後各研修会で議決されたことの確認と最終日の国会陳情のための準備に再度各グループにわかれて陳情議題を選ぶ。これは仲々時間のかかることだが、何しろ相手は政治の専門家なので余程上手に準備をしないと折角長い時間をかけてきめた婦人の要望も議員にはアピールしない。国会での限られた時間の質問は簡潔に要旨をえていなければいけないと、まるで学生に皆戻った様に発言の練習をする風景はほほえましかった。

第4日、最終日は総会をしめくくる晴れの国会陳情。昔うきうきして長い列を作って国会にのりこんだ。午前10時半より1時間は、新民主党主、並びに党議員と話し、次の時間は新歩保守党とそして最後の1時間では現内閣の自由党議員との意見交換。私にとっては新聞やテレビでしか知らない議員と直接逢えるので感激の連続だったが多くの仲間は、毎年の行事で要領を知っており互格で堂々と相手をやりこめるあたりさずがである。

総会の模様や国会陳情の内容はテレビや新聞に出て公開されたので、オマ

ワまで出かけて4日間を費したことがカナダの婦人問題解決に少しでも役立った様な気がして嬉しかった。

カナダにおける日系人の問題も大切だが、カナダで今何がおきているのかを知る事は、更に重要な課題であり、これは日系人社会の問題を考える時にも欠けてはならぬ要素である。

28. JOB HUNTING CLUBに入る

大学卒業生たち（1983年5月報告）

チューリップの花がカナダの自然に色を添える頃、カナダの大学生は学期末の試験に追われており、それが終ると大学の4年目、或いはカレッジの3年目の学生にとっては、卒業式が待っている。

今年大学やカレッジを卒業する者は、約16万5千人とみられており、史上最悪の不況の影響をじかに受けている為、多くの学生は就職の当てがない。この様な時代の反映として大学では今年JOB HUNTING CLUBを開設し、卒業後行先のない者に加入をすすめている。ある学生は、大学にとどまって更に資格をえたり実力をつけた方が将来有利だろう…と考えたり独自で何とか仕事口をさがそうとする者、或いはクラブに入って時の動きを静観する者など様々である。しかし今は、いかに職業斡旋の専門家と言えどもどの様に仕事を見つめることが最良か断言できる人はいない様だ。

今年の大学新卒者も加えて、25才以下の若者の失業率或いは未就職率は20.7%といわれ、これは1930年代の大不況時と似た現象だと言う。

トロントに本部をおくオンタリオ州大学・カレッジ職業斡旋協会の話によると、需要が固定されていた商経済学部系出身者に対する需要率が今年は30%も減少しており、又時代の花形と言われているコンピューターサイエンス系出身者にとってさえその需要が前年に比し25%も減少しているという。同協会の過去（1981-1982）の情報を総合すると、前年度に比し1982年度ですでに50%は需要が減少しているので1983年代は更にその需要が低下することとは明らかだともみている。又今年度は、かつて不況に強かった工学部系出身者や高度技術系部門の出身者でさえ、他学部系の出身者と同様就職難を体験しており、大学は出たけれどバラ色の人生をスタートすることが出来ずにいる者が続出している。長い間大学で学生の就職相談にのっていたある事務官は、「こんな深刻な就職難は初めてだ…」という。

TECHNICAL SERVICE COUNCIL（専門職種斡旋所）のMR. MACDOUGALLの言葉によると、昨年扱った大学・カレッジ卒業生対象の雇

用率は、前年度に比べ65%低下したという。大学卒の深刻な就職難は、有形無形の被害を当人に与えるが、同時に職業斡旋を行う側も深刻な焦燥感に悩んでいる。

多くの大学に付設されている学生職業斡旋所では、例年秋か冬のシーズンになると求人の依頼が殺到し、面接もキャンパス内で行なわれる。学生も要領を心得て準備をはじめると、このような現象が昨年辺りから後退したというより、求人広告が少ないため学生は勿論、職業斡旋所もその役目を果たす機会がなくなってしまった。そこで今春は、卒業を控えている学生を対象にキャンパス内に「仕事の探し方コース」や「履歴書のかき方コース」等を設けようと計画している。名づけてJOB HUNTING CLUB、日本であれば、さし当り同窓会加入の手続きをとるところだろうが、ここでは生活の賭かたきびしい門出となりつつある。

過去10年位を振り返ると、卒業期には大方の者が就職がきまっており10~20%位の人が尚仕事口を探し続けていたのとは逆に、今は就職のきまっている者が極くわずかにゼロに近いとみてよい。従って卒業式が終わったら求職運動と多くの者がまじめに前途を考える様になった。

大学の職業相談所で働いているある事務官が今学生に言っていることは、昔の様に求職運動をはじめて1ヶ月か2ヶ月以内に仕事が見つかるだろう…などと期待してはいけないということだ。求職運動には半年か1年かかると思っても言いすぎでないという。その様な忍耐力が今の時代の求職運動では特に必要とされているのだ。(カナダ人の大学卒業生でこうなんです!! まして日本からきた移住者が、1年近くも求職運動をしてるのにいまだに本職につけないとは…と不満をもらしたとしたら、それは少し甘すぎる、といいたいのですが…いかがでしょう?)。

この学生は、不況も失業率の高さも在学中十分に承知している。従って卒業後仕事口のない者はJOB HUNTING CLUBに入りお互いのストレスを解消しながら前向きな生活を続けることに努めている。このクラブは週1回会合を持ち、体験談を話す。例えばどの様にして求職運動をしているか、それらの経験を通して知ったことの情報交換もする。仲間意識が、一人ひとりと出口のない危機感を覚えるよりずっとプラスになるという。ある工学部出身の人があ

る会社の面接に行ったが、その面接で分ったことは、その会社は工学出身者の働らく口はないがビジネス系の出身者を求めていることを知った。このニュースをクラブの会合で言ったため経済学部出身の人はその会社へ出むく機会を与えられたり、色々な点でこのクラブは時代の要求とは言え大学新卒者に有利に働らくだろう。とにかく求職運動というのは肉体的にも精神的にも、長くなればなる程大変なストレスを与えるものだ。大切なことは、あらゆる機会をつかんで希望の職業を得る様努める気力を持ち続けることである。

前述のTECHNICAL SERVICE COUNCILのMR.MACDOUGALLは「当所にくる新卒者に言うのは、専門職域でなく他の領域の職種求人欄にも目をむける方がよい。そして可能性があるとみたら何んでも試してみる方が社会から隔離した大学にとどまっているより有利だろう。多くの会社は、経験のない新卒者を採用したがる傾向にあるが、今ここに大学を出て一年間求職運動にあげくれた無戦歴の人が同じ一つのポストに応募したら、大学を出て一年目の人より、大学出の新鮮な柔軟性のある人を採用するのも事実である…」という。そうは言っても現実には大学を出て2年、3年と経った無戦歴の人が巷にあふれており、新卒者もこれらの古参と競争して敗をうることになるので新卒、旧卒に関わらず求職運動は決して容易なものではない。

今この原稿をかき乍らラジオを聞いていると、カナダの不況もやや底をつき1977年以来インフレ率が7%台にはじめてのったという。カナダ政府が今強調しているのは失業者にまず職を…であり、従って日本からの移住者を容易に受入れる様になるのはまだ少し先のこともかもしれない。日本で移住を希望している人にとっては一体いつまで景気回復を待つのか…と焦り気味かもしれないが待つということも一つの移住対策であり又「待つ」ということにも沢山の待ち方があると思う。様々な情報に目を通し、積極的な態度で「時」を待てば必ず機会は与えられるものである。与えられる、というより貴方の望む機会は貴方の力で獲得するものである。と言いたい。

在カルガリー

増田 樹移住協力員報告

1. 日 系 人 関 係

(1983年1月報告)

1月は特に目立った動きがなかった。

新移住者協会は御存知の様に、中里氏を新会長に迎え、2月より新生活動を開始する予定である。これから役員の人選などが2月の仕事だと思ふ。

カルガリーにはもともと日系人(二世・三世等も含めた)会があったが、これも、ここ1~2年ほとんど活動がなく、このまま無くなる心配もある様だ。ただこの日系人会ではじめた日本語学校、舞踊の会などは、それぞれ頑張っている様である。

「かえでの会」(日本舞踊)は、昨年1~2月に1回ぐらい発表会を行っていたが、1月はほとんど練習が主だったとのことである。

日本語学校も冬休みが終り後期へ入った。1月中の動きとしては、恒例のシヌーク・バザーを2カ月後(3月15,16,17日の3日間)に控え、Chairman Co-ordinatorなどの人選を終えたところである。シヌーク・バザーというのは、市の南部にあるシヌーク・ショッピングセンターのWalkwayを利用して、各コミュニティーグループがそれぞれのお国自慢の物を売るもので、毎年40店以上が参加する。日本語学校もその売り上げてトップクラスに位置しており、利益は約\$2,500~3,000前後であるが、学校の予算に占める割合も大きい様である。内容は、やきとりを主にランチ、寿司、ドラヤキ、大福もち等の日本食を多数そろえ、これに父兄達が作ったクラフトをそえる。これに約\$1,000ぐらいのラックルチケット(3枚で1ドル)の売り上げを予想している。

日系人会、新移住者協会等の動きは概略上述のとおりであるが、現在いちばん問題なのは失業である。

次にカルガリー市関係の情報と共に日本人の失業について簡単に述べる。市当局は、昨年末421人の市役所職員のlay-offを発表したが(2月1日より)この中には30人の消防夫、53人のpoliceman(主に新入警察官)等も含まれている。これに対して、職員のUnion(269人のlaid-offをだした)は、違法だとして市当局に対して、職場への復帰を訴えている。2月4日の発表によ

ると、カルガリーの失業率は1月末で13.4%をマークしている。

ここで、日本人の方はどうなっているかを見てみると、現在私が知る限りでは、昨年の春頃から現在まで15人以上の失業者があり、まだ、これからいつ lay-off されるかわからないという人も2~3人居る様である。これは(上の数字)「ふるんていあ」の住所録に載っている人のみで、これに載っていない人も多分いるものと思われる。この中で一番多いのは Car mechanic で、他に、civil engineer, electrician 等となっている。中には思ってもみなかった laid-off の長さからか、バンクーバーへ職をさがしに移転していった人、日本へ帰った人、これから帰るかもしれない人など、皆それぞれ人生の岐路に立ち、いろいろ悩んでいる様である。日本では考えられないことだ。

毎日、新聞を見ても、不況に関することばかり。

- 82年の city の inflation 12% (CANADA 10.8%)
- city の労働力 1年間(82年)9,000人ダウンの305,000人
- 15才以上の人口が431,000人から420,000人に減少
- home owner の education tax 9.9%アップ等々……。

1月は、どれもこれも economy down に関するものばかりで、明るいニュースはあまりなかった。1日も早く、この不況から脱出して、日本人失業者の職場復帰の日が早い事を祈らずにはおれない。

2 「日本語学校によるシヌークバザー」他

(1983年4月報告)

毎年、恒例の「シヌーク・バザー」が3月17, 18, 19の3日間、カルガリー市南部にある「シヌーク・ショッピングセンター」のwalk way を利用して開催された。

初日は雪まじりの寒い日だったせいも、例年程の売り上げに達せず、二日、三日と日を迫うごとに上向きだったにもかかわらず、今年はやはりここにも不況の風が吹いている様であった。以下シヌーク・バザーの詳細をお知らせする。このバザーは、日本語学校を運営していく上で、かなりの重きを持つ収入源である。

今年はChair manにMrs. 吉田、Food担当にMrs. 小森、Craft担当にMrs. Galvin洋子を配し、1月より準備に入る。Craftは毎週金曜日夜の学校登校日に父兄が子供の待ち時間を利用して「鍋敷き、ミニチュアの日本傘、ハンガー、人形、壁掛け、折鶴等を製作し、家庭でもそれぞれ分担を決めて製作してもらう。又、Foodの方のメインであるヤキトリ、ギョウザは一週間前の3月12日、某学校のキッチンを借り切り、約半日ですべて料理し、フリーザーのある家庭に配分して保存する。いなり寿司、巻き寿司、焼まんじゅう、むしまんじゅう、大福もち、ドラ焼き、サラダ・クッキー、ケーキ類は、それぞれ分担を定めて作り、三日間にうまく組み込み、父兄全員が参加する事になっている。このバザーは、毎年この時期に開催されるが、中にはカナディアンの常連もあり、この日を待っている人もあるとのこと。意外とカナディアンの中にも日本食を一度でも味わった人は、何度も足を運ぶそうである。このバザーの重要性の一つに、日本文化の紹介もあげられるのではないだろうか。御存知の様にモザイク文化と呼ばれるカナダ社会の特徴が、このバザーで一目できるのである。50以上の各国のコミュニティー等が、それぞれの国の特徴を生かしたブース作りをし、そこでその国の食べ物やCraft等を売っているのである。

日本語学校もその例にもれず、食べ物にしてもクラフトにしても出来る限り、日本独特のものを販売している。

私達移住者で組織しているこの日本語学校も、子供達の日本語教育のみならず、常に外に向けても、こういう努力をしている事を忘れてはならないのではないだろうか？ 日本語学校の父兄の中にもこのバザーについて、毎年、賛否両論がある様であるが、このバザーが、そうした日本文化紹介によって日本とカナダの文化交流へと発展して行く事を思えば、是非これからも続けて欲しいと思うものである。

「Hokkaido Art」について

去る2月27日より3月28日までの一カ月間、カルガリーのグレンボウ美術館に於いて、北海道の芸術家による絵画、彫刻、焼物等の展覧会が「Hokkaido Art」と銘うって開催された。

これは、アルバータ州と姉妹州にあたる北海道が開催した去る1979年の「カナダ・アルバータ現代美術展」及び1981年の「カナダ20世紀絵画展」に応えるものである。会場入口には北海道側より、堂垣内知事のあいさつを始め、教育委員会委員長の安藤鉄夫氏、北海道立近代美術館長の倉田公裕氏、アルバータ州側からは、ビーターローヘッド州首相、文化大臣メアリー J. ルメジュリエ氏のあいさつが日・英両語で掲示されていた。

作品は、メインである岩橋英遠氏作の「道産娘追憶之巻」の巾約63cm、長さ約30cmに及ぶ日本画の大作をはじめ50点以上の作品が展示されていた。グレンボウ美術館側の話によると、一カ月間に一万人近い入館者があり一般に入館者の少ない3月としてはまずまずだったとのこと。

「楓の会」レスブリッジの「春まつり」に参加

去る3月13日、レスブリッジで開かれたJ.C.A主催の「春まつり」にカルガリーからも「楓の会」の踊り娘5人とその家族が参加した。この催しは、昨年に続き2回目とのこと。会場には、白人を含む300～500人の聴衆が詰めかけ仲々盛況だったようである。

「楓の会」は、「天竜下れば」と「おけさ歌えば」の二つの踊を披露した。

この他、カラオケ、ピアノ・ヴァイオリン演奏、詩吟、バレー等があり、楽しい一時を過ごした。

「楓の会」のディレクター中里さんの話に依ると、もう少し踊り娘になる人がいれば良いとのこと。又、レパートリーもだんだん増やしていきたいとのことであった。

「カルガリー新移住者協会 (N. J. C. A)」

約一年の間、活動を停止していた新移住者協会が、トロントの佐々木仁分室長の御助力もあり、新しい役員、編集委員（ふろんていあ）が決定、一同決意も新たに活動を開始した。

昨年末より数会の役員会が開かれた結果、この三月より、毎月一回、会として月例会を開く事が決定され、その第一回が3月12日、市北西部にある *Dalhousie Community Center* で開催された。

この月例会は、毎回研修会を柱とし、残りの時間をビデオや雑談、碁、ゲーム等を楽しむ場所をつくろうと始めたものである。3月12日は、小柳氏の「税金についての話」ではじまり、子供にはマンガのビデオ、大人には歌番組のビデオを流したり、本を見る人、はじめて知り合った人達どうして意気投合したりで、初回にしては大変成功したのではないだろうか。会では、これを回を追うごとに充実したものになりたいと考えており、第二回目以降も「パンフ周辺のレクリエーションの情報」「栄養と健康」「春から夏への車の整備」等々、研修会もたくさん準備されている。トロントの会館の様な物は無理としても、近い将来小さな場所でもいいから、会自身の場所を持ちたいと会員一同望んでいるとのこと。そのためにも月一度の月例会が増々充実していくことを祈りたいと思う。

3. 新移住者協会月例会について他

(1983年5月報告)

会を追いごとに盛況を増して来た月例会も、今回で三回目。今回から月例会も夏時間を採用して7時より開始、8時までNHKテレビ制作の「教育と非行」についてビデオ観賞。8時半より講習会に入る。

今回は、市内でカーガレージとガソリンスタンドを経営する大西氏にお願いして、女性にもわかりやすい車の点検と安全運転についてお話ししてもらった。大西氏の理路整然とした話し方に、会員は熱心に耳を傾けていた。車を運転する前の点検から始まり、運転中の注意(異常音等)、故障の時の応急修理から、上手なタイヤの買い方まで多岐に亘り、最後の会員からの質問も活発に出て、約一時間に及ぶ講習会も大変有意義なものであった。会員の中には冬へ入る前にも同様の講習会を望む声が多かった。

この間、子供達は隣の部屋でビデオや遊びに夢中で、いよいよ終りに近づき、特別製のアイスクリームケーキに舌づつみを打ち、会を解散した。

ADONIS CHILDREN'S CHOIR OF OBIHIRO JAPAN について

去る5月2日(月)、帯広よりアドニス児童合唱団を招いて、楽しい夕べのひとつきもたらされた。この合唱団は、帯広市の中・高校生約50名から組織されたもので、普段は土・日を利用して練習しているが、今回のこの企画が決ってからは毎日厳しい練習を続けたとのこと、その甲斐あって大変美しい歌声を聞かせて戴いた。前半はバッハやチャイコフスキー、ラフマニノフなどの歌を唄い、後半は、さくら・さくらをはじめ懐かしい日本の歌をじっくり味わった。公演の後、関係者の話を聞いた所では、フェアバンクス、エドモントンそしてカルガリーと廻ってきたけれど、「日本人の観客が少ないですネ」とのチョッピリ不満の言葉が出た様であるが、今回のこの催しは、アルバータ州政府の主催の上、会場の狭さ(250人収容)から、招待形式をとったもので、この様な事になったのではないかと思う。この公演を全然知らなかった日本人もあり、大

変残念であった。

これからも日本からこの様な催し物が企画されたならば、もっと在留日本人に行き届く連絡体系をつくらなければいけないと思う。

第3回 新移住者協会主催・ピクニック・運動会について

去る5月23日(ピクトリアデー)、協会主催の第3回ピクニック、運動会が、市内のエドワージーパークで開催された。心配された天候も上々で、朝10時頃から会員をはじめ、武道クラブの面々も姿を見せ、予定の11時より講習会に入った。今回は運動会にふさわしく、カルガリー武道クラブによる「護身術の心得」という事で、各クラブ(空手、合気道、少林寺けん法)がそれぞれの形を披露、会員を混えている色々な場合の護身術を練習した。1時より昼食に移る。各自持参した料理をテーブルに並べ、ポットラック形式をとる。久しぶりの家庭料理にありついた独身の方や白人も混って、皆舌づつみを打っていた。2時半より運動会に入る。二人三脚やあめ捜し(粉の中の)、ボールけり、パン食い競争をはじめ12~13種目の競技を含め、つなひき、リレーを最後にレース終了、子供達の楽しそうな声が一日中公園にひびいた。最後にこの日のために各方面から寄附や賞品が寄せられ、これをドアブライズとして抽選会が行なわれ、当選者の歓声が響き渡っていた。

尚、当日の人数は、のべ100人以上と思われる。当初、ホリデーのため心配していた人数も予想を上まわり、当事者はホットしていた。

来年は新移住者のみならず一世、二世の方達ともどうかという声も出ている様である。

移住協力員略歴

カナダ移住協力員略歴



○ 鹿毛 達雄（かげ たつお）

1958年 東京大学文学部西洋史学科卒業

1966年 東京大学大学院博士課程修了後
明治学院法学部助手を経て、1975年同大学
法学部教授となる。同年ブリティッシュ・コ
ロンビア大学研究員としてカナダに移住。

1977年バンクーバー移住者の会会長(2年間)。

1978年バンクーバー市移住者援護機関「モ
ザイク」日本語・ドイツ語担当職員として勤
務。1979年カナダ連邦政府通訳官(非常勤)。
ヨーロッパ現代史、政治史に関する論文、著
書など多数ある。

カナダ移住協力員略歴



○ 江口 静子（えぐち しずこ）

- 1953年 共立薬科大学卒業
1976年 セネカカレッジ資源管理工学科卒業
- × × ×
- 1953年 共立薬科大学卒業後、東京大学薬学部分析化学科で勤める。
1956年 北海道大学薬学部薬用植物学科、同大学工学部衛生工学科で勤めた後、1970年カナダ移住。
1970年 トロント大学環境衛生学部で勤める。
1979年 マクマスター大学化学工学部に勤務。
1980年 連邦政府環境庁に勤務し現在に至る。

カナダ移住協力員略歴



○ 増田 樹 (ますだ たつる)

東京医科歯科大学附属歯科技工士学校卒業。
1977年歯科技工士としてカナダ移住。カル
ガリー在住。

国際協力事業団は、本部を東京におき、移住部門では海外移住センター、海外移住研修所および国内に10の支部、海外ではブエノス・アイレスを始め9都市に支部、およびロス・アンジェルズ（米国）、トロント（カナダ）、シドニー（オーストラリア）に駐在員事務所をおいています。国内支部は外国に移住する人々に対して、海外移住知識の普及および相談・指導等を行なっている公的実務機関です。カナダ移住についての詳しい資料をご希望の方、その他海外移住についてのご質問がありましたらご遠慮なく、最寄りの下記国内支部にお問い合わせ下さい。

国際協力事業団移住部門国内機関一覧表

機 関	〒	所 在 地	電 話
移 住 部 門	160	東京都新宿区西新宿2-1 私書箱216号(新宿三井ビル内)	03-346-5349
(付属機関) 海外移住 センター	235	横浜市磯子区西町16-5	045-751-1121~5
海外移住 研修所	371 -02	群馬県勢多郡宮城村大字柏倉字 溝ノ口4114	0272-83-3225
(国内支部) 北海道支部	060	札幌市中央区北一条西5 (北一条ビル内)	011-221-6661
東北支部	980	仙台市本町3-4-10 (宮城県水産会館内)	0222-63-0795
関東支部	160	東京都新宿区本塩町8-2 (住友生命四ノ谷ビル内)	03-359-8281
中部支部	460	名古屋市中区丸の内2-4-7 (県産業貿易館西館内)	052-221-7104
関西支部	530	大阪市北区堂島2-2-2 (近鉄堂島ビル8F)	06-345-3621~4
中国支部	730	広島市中区基町10-3 (県自治会館内)	0822-27-1588
四国支部	760	高松市番町5-1-24 (観光ビル内)	0878-33-0901
九州支部	812	福岡市博多区博多駅前2-9-28 (商工会議所ビル内)	092-451-3380
熊本出張所	860	熊本市花畑町1-4 (熊本東京生命館内)	0963-22-1315
沖縄支部	900	那覇市西3-10-102	0988-68-0136

JICA



1983.9-500